

生活保護制度は

最後のセーフネットとしての役割を

五年間で相談・申請開始件数が半減

吉田議員

生活保護制度は、「最後のセーフネット」として、人々の命を支える最後の砦であるが、

松井市長はこの制度についてどのように考えているのか。

過去5年間（平成26～30年度）における生活保護の、相談件数、申請件数、開始軒数、過去5年間の生活保護

の受給世帯と人数について松井市長に尋ねた

い。

親族がない方、心身の障害により就労が困難な方など、さまざまなもので日々の生活に困窮されている世帯を対象としている。

申請用紙は、窓口の目のつくところに置く。申請から決定までの期間の法定期限（14日間）を守る。③通院移

支給すべきであること

を徹底していただきたいが。

も半分に減っている。

そこで、①生活保護

のつくるところに置く。

②申請から決定までの

期間の法定期限（14日

間）を守る。③通院移

支給すべきであること

を徹底していただきたいが。